

(様式1)

学校番号 (5120085)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立下阿多古小学校運営協議会長

<本年度の目標>

次年度の教育目標を踏まえ継続的・持続的に熟議し、学校運営協議会の考え方を熟成させる。
子供たちが貴重な体験を積みために必要な人材や場所等の情報提供および発掘について熟議する。
委員が主体的に情報を取り入れ、地域を巻き込んで育成支援する体制づくりを熟議する。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

協議会発足4年目となり、協議会として、より子供たちのため、地域のためにと、協働して活動していく意味の大切さを、熟議を通して話し合うことができた。また、学校教育目標をよく理解し、ふるさと下阿多古を愛する心の醸成に対し、各委員が前向きな意見や提案、問題点など発言することができた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

地域内でも子供たちが減少している現実を再認識し、PTAの地域分担等にも触れ、今後の運営の道筋を感じる事ができた。
地域と学校のつながりを強め広げるために、主体的に活動する機会や必要な人材・場所等について活発な熟議をすることができた。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

コミ・スクだよりやホームページ、学校だより等での発信は充実していた。しかし、残念ながら保護者や地域全体への理解や認識には繋がっていないと感じた。学校・家庭・地域の連携を深めるために何ができるのか、対策を考えていきたい。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- 学校運営協議会として、委員自らが楽しみながら活動し、大人も子供も「ふるさとを愛する心」を醸成していける熟議を活発に行う。
- 今年度の協議会により活発に熟議された意見を無駄にすることなく、集約、精査し、次年度へと繋げていく。
- 地域と学校、保護者との連携を導き、子供たちの主体的な学びや豊かな体験活動へと繋げるための熟議を進めていく。